

令和4年度 第1回浜松市男女共同参画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年8月4日(木) 午前10時00分から午前11時30分まで
- 2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第4委員会室
- 3 出席状況
(1) 委員 石原和代委員、犬塚協太委員、今泉るり子委員、金田知久委員、葛島昌己委員、新村早織委員、鈴木春光委員、中田明子委員、和田清子委員 ※50音順
(2) 事務局 奥家章夫市民部長、河合多恵子UD・男女共同参画課長、鈴木大祐UD・男女共同参画課長補佐、森田毅彦共同参画グループ長、石野愛子主任、飯島奏子、特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協会 2人
- 4 傍聴者 4人 ※うち報道関係者2人
- 5 議事内容 令和4年度事業計画について【資料1】
令和3年度活動拠点施設事業(あいホール事業)報告・評価【資料2】
- 6 会議録作成者 名倉みゆき
- 7 記録の方法 発言者の要点記録(録音の有無:有)
- 8 配付資料 (1)次第
(2)令和4年度事業計画【資料1】
(3)令和3年度活動拠点施設事業(あいホール事業)報告書【資料2】
- 9 会議記録 次頁以降のとおり

1 開会

事務局

令和4年度第1回浜松市男女共同参画審議会を開催する。

2 新委員委嘱

奥家市民部長から、新委員への委嘱書交付を行う。

<委嘱書の交付>

3 新委員自己紹介

<新委員の自己紹介>をお願いする。

4 市民部長あいさつ

奥家市民部長あいさつ

5 職員紹介

<UD・男女共同参画課職員自己紹介>

6 会長あいさつ

犬塚会長あいさつ

7 議事

(1) 令和4年度事業計画について

事務局

令和4年度事業計画【資料1】の説明

犬塚会長

事務局から説明があった「令和4年度事業計画」について、ご意見、ご質問はあるか。

新村委員

男女共同参画推進事業の男女共同参画週間啓発事業のところに「各種啓発を実施」とあるが、具体的にどのようなことを行うのか。ここに説明されているような取組は、普段あいホールを利用するような意識の高い人達には響くと思うが、従来の価値観を持っていて、それに疑問を持たない人達への働きかけはとても大事だと思うので、そのあたりを伺いたい。

事務局

市役所ロビーにおける男女共同参画週間啓発パネル展や、あいホールにおける男女共同参画フェスタとして講演会等のイベントなどの実施、あいホールのトイレに性教育トイレットペーパーの設置などを実施した。また、県内図書館と男女共同参画センターが連携して男女共同参画関連図書を紹介する「男女共同参画おすすめBOOK」というイベントを毎年実施している。

新村委員

普段、会社で仕事をしていると、ジェンダーギャップ指数の順位そのままであると思うことが多い。市役所やあいホールで様々なことをやったださっているが、普通に暮らしている方に響くような啓発を、今後に向けて考えているか。

事務局

職場や学校への周知はとても大切であると考えている。現在、「こらぼ講座」を活用していただき、企業等へ出前講座を実施している。テーマが「コミュニケーション」「LGBTQ」「メディアリテラシー」など10あるが、今後、増やすことも検討していきたい。

新村委員

企業であれば担当者、学校であれば担当教諭に周知されて広がっていくということで理解した。

犬塚会長

企業社会においては、とりわけ男女共同参画やジェンダー平等について、経営者層や管理職層のような意思決定に関わる立場の人達に浸透していかないという大きな課題がある。比較的若い子育て世代の中では、ジェンダーについての意識は変わってきているが、なかなか上の人達の意識が変わらないところが大きなネックになっている。自治体問わず、事業所関連の問題として大きい。

先ほど、こらぼ講座の紹介があった。これは、重要なルートとして機能していくことが大切だと思っているが、心配なことは、こらぼ講座はこちら側からアドバイザーを派遣するという仕組みなので、言い換えれば、先方から依頼がないと動き出すことができないということである。依頼する企業には、それなりに問題意識を持っていたり、経営者や管理職にそのような認識があったりしてのことであると思う。一方で重要なのは、受け身の姿勢ではなく、積極的にこちら側から企業の経営者や管理職を巻き込んだ形で、アクティブな働きかけができないかということである。資料を見る限り、より積極的に企業に働きかけ、企業を巻き込んでいくような形の取組としては、はっきりしていないと思う。単独で、男女共同参画課だけとか、あいホールだけで取り組もうとしても企業は巻き込みにくい。連携をとっていくには、様々な部局や対象となる事業所が相互に協力していくような関係が取れていないと難しい。例えば、商業や労働政策といった分野を担当する部局と連携して、共同企画のような形で企業などに働きかけて、企業のトップや人事総務担当者を巻き込む形がよいのではないか。静岡県では労働政策関連や企業対策関連部局等でも、男女共同参画課部局と連携しながら様々なセミナーを実施している。新村委員から意見があったテーマに則したものも多々ある。これも単独では実施しにくいという意味で、様々な部局との連携の中で実施の可能性を模索し、今後の検討課題として欲しい。既に実施しているというのであれば教えていただきたい。

事務局

この問題については、男女共同だけでなくユニバーサルデザインについても企業に周知していかなければならないが、なかなかできないという課題に直面している。今後、産業部局等と連携を図って積極的にPRをしていきたい。

鈴木委員

三遠南信地域女性交流会は、浜松市・豊橋市・飯田市の3市で行っているようだが、この3市に絞った理由を教えてください。

事務局

この事業は20年以上続いている。初めは浜松市と飯田市でスタートして、途中から豊橋市が加入したと記憶している。なぜ3市なのかは理由としては分からない。経緯

としては2市でスタートし、途中から豊橋市が加入し、長い間、交流会を継続している。

鈴木委員

経緯は分かった。

市民部長

経緯としては事務局の言った通り。当初は、浜松市と飯田市の南北の軸の中で、いわゆる姉妹都市・交流都市・友好都市という形をもっていた。その後、豊橋市を含め、経済的・文化的交流の共通点が多い地域が一緒になって、様々な面で活性化したいという話が地域の中で起こり、「三遠南信という言葉を作り、3市で協力して進めて行こう」と協定を結んだことが事の起こりであると記憶している。これについては産業や福祉等のあらゆる分野で三遠南信地域における連携事業が行われており、男女共同参画の分野においては、全体的な三遠南信事業の大きな政策の中の一つのメニューとして、この女性交流事業を継続して実施していると認識している。

金田委員

活動拠点施設事業のLINEを活用した相談事業について伺う。試行したばかりであり、報告書をまとめている最中であると思うが、若者に身近なものを活用した大変良い試みだと思う。高校生年代からの相談窓口は、小中学生に比べると減る。ポイントは友だち登録をいかに増やすかということだと思う。先行して行っている青少年育成センターでは、4年間くらい継続しており、友だち登録が2千人程と聞いている。来年度本格的に実施するのであれば、予算的なこともあるかも知れないが、今年度、もう一度試行してみて、来年度の本格実施につなげれば、非常に良い相談事業になるのではないかと思う。

事務局

LINEを活用した相談事業に関しては、金田委員が言われたように、浜松市では青少年育成センターわかばが先行して、若者を対象とした相談事業として実施している。今回、男女共同参画センターの方でもSNSを活用した相談ができないかというところで、試験的な形で実施した。青少年育成センターでは、対象は中高生くらいが主であると聞いている。男女共同参画センターで実施している従来の電話・面接相談に関しては、主に40代から50代が中心となっているが、20代などの若者にももう少し対象の幅を広げたいということから、広く普及しているSNSを活用できないかということで、今回試験的に実施したものである。ただ、男女共同参画の部門では他の自治体での実施例は少ない状況である。また、実施するにあたっては相談員にもスキルや情報が必要であり、初めて実施することなので、ニーズがどのくらいあるか分からないということもあり、今回試験的に試してみようということで実施した。想定以上に相談をいただいたので、来年度以降は本格的に実施していきたいと思っている。もう一度試験的な実施ということについては、繰り返しができれば良いと考えるが、今年度は予算の関係もある。いただいた意見を参考にして、来年度以降の検討を行いたい。

石原委員

自治会の役員について伺いたい。三ヶ日町では30の自治会があるが、自治会長は全員男性で、役員も90%以上は男性というのが慣例になっており、女性の参加が難しい状況である。地域の防災についても、なかなか女性の意見が取り入れられない。避難所運営についても女性の視点が無いので、トイレの問題や授乳、着替えなど、様々な

問題が出ている。どのようにすれば、地域の自治会の役員に女性が参加できるのか。例えば、自治会連合会の研修等で男女共同参画推進事業を取り入れて、役員の意識を高めて欲しいと思う。

事務局

おっしゃる通りであり、自治会や防災の面で女性参加の割合が低い。研修などでも実績値を上げていこうということで取り組んでいるところである。今後、一層周知に努めていきたい。

鈴木委員

自治会では、会長や役員について立候補制をとっているのですが、女性も参加することはできる。しかし、女性はなかなか立候補しない、あるいは推薦されない。南区の例を話すと、7つの地区に分かれており、うち6つは会議の開催時間帯が夜であることが多い。7つのうち1つが土曜日開催である。24時間、365日活動するという心構えでなければ、自治会運営はできない実態である。女性も参加できるが、なかなか手が挙げられず、また、推薦されない。是非、女性も参加して欲しい。

犬塚会長

自治会等の地域団体の中に、どの様に男女共同参画を推進していくかということについては、長い間、全国や県内において様々な取組がなされている。方法も様々であり、直接的に一番効果が高いのは、既にあいホールでも実施しているように、防災を切り口にするのである。女性の視点を組み込んだ避難所の運営マニュアルや避難訓練の見直しといった、実践的かつ住民の関心も高いテーマを入口とする。自治会や防災等の団体に対して、男女共同参画の必要性、意義を知ってもらうための働きかけを行うことが、一つの大きなきっかけになるケースが多い。

先ほど、女性の参加が少ない、具体的に意思決定に関わる立場や役職、役員に女性が少ないという話があった。私が経験した沼津市での例を話すと、自治会連合会単位で地区ごとに2年間かけて講座を実施した。1年目は4回ほど、男女共同参画がなぜ自治会活動に必要なのかという話をし、どの様なやり方をすれば、防災を初めとした様々な活動に女性の視点が取り入れられるのかを伝えた。2年目では、その地区が前年度に実施した講座の効果を、実際の活動にどの様に活かし、今までの活動をどの様に見直していくか、例えば、防災訓練では実際の例を挙げてフォローアップをしていくという形で、きめ細かく地域に入り込んでいった。

アクションをこちらから起こしてかないと、行政が受け身の姿勢では絶対に変わらない。そういうことを地道に積み重ね、10年間かけて地域の取組を進めて、ようやく面として少しずつ活動の成果が出てくるという性質のものであると思う。行政の側から、より積極的に踏み込んで地域団体との関係を持ちながら、その地区ごとにどの様な取組が最も適しているか、それぞれの地区の特性・ニーズに合わせて何が必要なのかということを考え、テーマ設定などをしながら積み重ねていく取組を、時間はかかるが地道にやっていく必要があると思う。企業関連と同じで、男女共同参画単独ではなく、関連の地域自治会担当部局や防災部局などと連携しながら、横の連携事業として企画を考えていくことが長期的には必要だと個人的には思う。是非ご検討いただきたい。

事務局

防災の関係では既に連携を図っている。昨年度のDV防止啓発事業においては、危

機管理課と連携して地域の自主防災隊にも参加してもらい、避難所運営におけるDVや性暴力、虐待防止に焦点を当てた男女共同参画の視点からの防災講座を行い、男女共同参画・女性の視点なども取り入れている。その様な中で、意識が変わってきた自治会長もいる。昨年度から始めたリプロダクティブ・ヘルス/ライツのイベントにも、女性の身体のことを知って、防災活動に繋げていきたいということで参加した自治会長もいる。徐々にではあるが、連携が図れてきており、理解促進に努めている。

犬塚会長

是非、その様な取組を幅広く進めて欲しい。

一つ質問したい。UD・男女共同参画提案事業において、今年度は「女性リーダー育成」というテーマで企画されているが、具体的な内容と既に実施されているのかどうかを伺いたい。

事務局

この事業は、市民団体から企画を募集し、それを審査して採択し、委託という形で実施するものである。詳細に関しては提案いただいた団体と調整中であり、開催時期は12月頃を予定している。内容は、昨年度、女性リーダー育成に関するアンケート調査や女性リーダーの懇談会を行った。今回はこれをベースにして、広く講演会等を実施するという内容で検討している。

犬塚会長

政治と男女共同参画という点で、非常に日本の社会の遅れが目立つ。女性リーダーの育成はこの点で決定的な重要事業の一つと位置付けられる。政治家になるというだけではなく、社会の中で女性が自らの意思できちんと自分の意見が発言できる、そして、地域の様々な活動をし、最終的に例えば政治活動等につながればなお良いと思う。こういった審議会等にも女性が参加し、自分の意見が述べることができる、そういった意味での地域のリーダーを多く育成していくことが非常に肝心である。今回の企画は調整中ということであるが、日本の社会は、政治の分野や意思決定に関わる立場の女性の活躍が極めて遅れていて、その部分が乏しい。地域の女性リーダーの方々に関問題意識をしっかりと持っていただくために、政治と男女共同参画の関係性や、そこにおける遅れの実状などの情報も取り入れて実態を知ってもらい、社会を変えていくためには女性リーダーが必要であるという問題意識を持ってもらえるような内容を組み込んでいただきたい。企画の際の参考にしていただきたい。

(2) 令和3年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告・評価

事務局

令和3年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告・評価【資料2】の説明

犬塚会長

事務局から説明があった「令和3年度活動拠点施設事業（あいホール事業）報告・評価」について、ご意見、ご質問はあるか。

今泉委員

相談事業のここと、今年度試験的に実施したLINEを活用した相談事業について伺いたい。報告書によると20代からの相談が少ない。LINEを使うと若い世代の相談が増えると期待できる。今回の試験的に実施した相談事業では、相談者の年代層がどうであったかを聞きたい。また、LINEを活用した相談は、相談の垣根が下がり、気軽に相

談できるようになったと思うが、市民にどのような形で周知していくのか教えて欲しい。

事務局

令和3年度の主な相談内容は、家族、配偶者・パートナー、子どものことが主であり、年代的には、40代から50代が中心となっている。もう少し年齢層の幅を広げたいということで、今回、LINEを活用した相談を試験的に行った。年代層としては電話・面接相談よりも比較的若かったという印象があった。正確な数字に関しては現在集中中である。周知宣伝に関しては、ホームページ、TwitterやFacebookのSNSでの情報発信、新聞等メディアの報道発表などを行った。その他、市内の大学に相談し、保健室でチラシやカードを配布してもらったり、学生が見ることができるポータルサイトに情報の掲載を依頼したりした。市内の各相談支援機関にもチラシを配布するなどの情報提供を行った。浜松市子育て情報サイトぴっぴや、県のあざれあのホームページに情報を掲載した。また、教育委員会と市内の学校を繋ぐネットワーク「ミライム」に情報を掲載して教職員に周知したり、教育委員会を通じてスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーにも情報提供をした。中でも特に効果的だったのはLINE広告であった。

犬塚会長

相談内容のキーワードで、孤独や寂しさが圧倒的に多い。今、若い世代を対象にLINE相談を広げていく動きがあるが、非常に心配なのがコロナ禍以降、特に若年世代の女性の自殺が増えており、コロナ禍の影響もあって中学生・高校生・大学生の世代の女性が孤立している、家族がいても孤独な状況を抱えているという問題がかなり根深いのではないかと心配されている。大学だけでなく、高校にも協力を仰いで周知を広げていたり、LINE広告なども使ったりするなど、若い世代の女性の孤立を防ぐというところを意識した取組についてご検討いただきたい。

事務局

若者向け相談に関しては、青少年育成センターわかばで今月から若者向けLINE相談を実施している。こちらは対象が中学生・高校生が主である。あいホール相談室では年齢制限を設けておらず、幅広く実施していきたいと思っている。また青少年育成センターわかばと協力して進めていきたいと思う。

犬塚会長

是非、その様な連携もお願いしたい。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ啓発事業については、担当課の方でも注力されていると受け止めている。あいホールの昨年度の事業報告でも、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ講座も開催されているし、若い世代に様々なことを伝えていく積極的な取組は大変ありがたい。私は日本女性学習財団の理事をしている。その団体の企画において、「若い世代のジェンダーに対するモヤモヤをみんなで話し合おう」ということで、弘前大学の学生と秋田の国際教養大学の現役の学生が代表となって取組を行っている。弘前大学の学生は、積極的にリプロダクティブ・ヘルス/ライツの問題を含むジェンダー平等のための取組を行うグループを立ち上げた。秋田の大学生は、絵と言葉で若者世代に訴えかけ、どの世代が見ても考えさせられるようなアートとジェンダーというテーマで個展も開いて活動をしている。この様な若い世代の活動について、あいホールでも積極的に情報を収集して、例えばリプロダクティブ・ヘルス/ライツの講座を企画されるようなら、その様な方々に協力していただき、講師となっていた

だくのも良いと思う。弘前大学の学生が作っているユニークでとても充実したパンフレットがある。

先ほど紹介した絵と言葉で表現した秋田の国際教養大学の学生の作品であるが、絵に言葉を添えた作品を展示しながら、今の若い世代がジェンダーについてどの様なことを考えているのかプレゼンをするという機会を設けている。現在、東京の日本女性学習財団の施設内で、8月末まで展示会を開催している。ジェンダーに関心のない方でも何かを考えるきっかけにしてもらえるよう、そのような機会に使用する素材をたくさん提供する活動をしている。

弘前大学の学生が、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを考えるにあたり、「産婦人科への一歩」というタイトルで、産婦人科を受診するためのビギナーズガイドンスということで冊子を作っている。これは産婦人科の医師と協力して、若い世代の女性が気兼ねなく産婦人科に行けるよう、例えば生理の問題や望まない妊娠を避けるため、あるいは性暴力等の問題の対処法などを、学生の立場から分かりやすく盛り込んだものである。実践的で役に立つ情報が含まれており、若い世代の学生にも親しみを持って見てもらえるような資料が多く作られている。日本女性学習財団に問い合わせをすれば、情報を提供してもらえと思う。今年度は既に様々な企画をされていると思うので、直ぐにということではないが、若い世代の学生が非常にユニークな取組を積極的に企画していることから、全国で活躍している学生に協力してもらい、新しい企画を立ち上げていただけると嬉しい。あいホールは全国的に見ても非常に水準が高い取組をされているため、私が言うまでもないかもしれないが、参考としていただけるとありがたい。

事務局

市の取組において、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ啓発事業を進めていく中で、庁内プロジェクトとして「ミモザ・プロジェクト」を立ち上げた。それとは別に、若い世代が健康やジェンダーに対してどのような考えを持っているかを知るため、主に市民協働に取り組んでいる大学生・高校生を集め、まずは「生理のことを話そう」ということで座談会を開催した。そこでは「産婦人科に行きづらい」という意見も出た。先ほど会長から紹介していただいた「産婦人科への一歩」は素晴らしいと感じた。第2回を開催する予定であり、是非、若い世代と繋がっていきたい。また、あいホールでも様々な取組をしているので、浜松男女共同参画推進協会の道喜理事長からコメントがあればお願いしたい。

浜松男女共同参画推進協会（道喜理事長）

様々なご意見をいただき、ありがとうございます。浜松男女共同参画推進協会では浜松市から委託を受け、様々な事業を実施している。LINEを活用した相談は実証実験ということで実施し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ啓発事業は、あいホール事業とは別契約の単独事業として取組を行っている。

あいホールの特徴としては、利用者層が40代から50代が中心ということで、年齢層が高いということは自覚している。できる限り若い世代に伝えていきたいと思っており、生理のイベントについては全国的にも珍しい取組ということで、様々なところから評価をいただいている。今年11月には、静岡文化芸術大学の文化祭に出展する予定である。コンテンツとしては充実しているので、様々なところに生理用品を持って出かけて行きたいと思っている。また、私たちの活動を若い世代に繋いでいけるよう、

この様な活動を広めるアクティビストを養成する講座を計画している。来年度以降も継続してリプロダクティブ・ヘルス/ライツ啓発事業ができるよう、また、そこから女性リーダー、意見を言える女性達が育てば良いと思っている。女性リーダー育成について、はままつ女性カレッジの事業が今年度9期目を迎える。そこを修了した女性達が、様々な分野で活躍している。政治分野に進んだ人もいるし、私と近藤も一期生であり、その様なところで市の事業としては根が広がっていると実感している。事業を作る側としても、各方面で活躍できる女性を育成したいということで講座を実施し、その継続活動が途切れないよう、フォローアップのための事業も昨年度から実施している。

若年女性の孤立・孤独の問題についてであるが、あいホールの交流空間では夏休み中も含めて若い世代が勉強しており、席が埋まっている状況である。施設管理者としては長時間の利用は不可と言いたいところではあるが、居場所がない、勉強する場所がない、家では兄弟姉妹がうるさくて勉強ができないなどの理由で、あいホールが来やすい場所として利用していただいているのであれば、無下にはできないと感じている。

指定管理事業については本年度からUD・男女共同参画課が所管となったので、指定管理の各事業についてもお話する機会があれば嬉しい。

犬塚会長

全国的に見ても浜松市の男女共同参画の最大の強みは、あいホールという活動拠点施設があって、そのスタッフがジェンダー問題に対して非常に深い知識や取組の意欲を持った有能な方々で、良い企画を作り出す実力を持っているということであり、それが浜松市の男女共同参画の大きな力になっていると認識している。市と引き続き連携を深めていただくとともに、長期にわたって女性カレッジで優秀な人材を育成しているので、その様な人材を活用しながら、若い世代を巻き込んでいくような新しい企画や、若い世代の居場所としての機能の検討など、それらを含めて様々な形であいホールを有効活用していただきたい。

市においても、貴重な資源としてのあいホールと運営スタッフを上手く活かした形で有効な取組みを今後進めていただきたい。これは浜松市の大きなメリットなので、是非、活かしていただくよう期待している。

犬塚会長

本日の議事を終了する。

8 閉会

市民部長

総括

事務局

以上をもって、令和4年度第1回浜松市男女共同参画審議会を閉会する。